

平成28年10月31日

三浦市議会議長 岩野 匡史 様

総務経済常任委員会

委員長 草間 道治

平成28年度 総務経済常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程

平成28年10月6日（木）・7日（金）

2. 視察地

沖縄県糸満市 10月6日

沖縄県南城市 10月7日

3. 視察参加者

総務経済常任委員会

委員長 草間 道治

副委員長 小林 直樹

委員 藤田 昇

委員 寺田 一樹

委員 長島満理子

欠席委員 木村 謙蔵

随 行 長島ひろみ

(事務局) 根本 絵里

4. 視察事項

◇ 沖縄県糸満市

「平和行政の推進」について

- ・ 全般的に市としての取組
- ・ 戦争遺構の保全、活用

◇ 沖縄県南城市

「上がり太陽(ていーだ)プラン」について

- ・ 「上がり太陽プラン」事業概要（応募、採択された事業、審査の方法など）
- ・ 提案の募集・PRの手法
- ・ 事業を行ったことによる効果

【10月6日(木)】

■沖縄県糸満市の概要

- 面積 46.63平方キロメートル
- 人口 60,621人（平成28年8月）
- 世帯数 24,936世帯（〃）
- 産業別 第1次産業（7.8%） 第2次産業（16.3%）
第3次産業（75.9%）
- 市制施行 昭和46年12月1日

糸満市（いとまんし）は、那覇市から南へ12kmのところに位置している、沖縄本島の最南端に位置する市であり、71年前の沖縄戦の終焉地である。昭和36年に1町3村の合併により現在の糸満市を形成している。市制施行から45年目を迎えている市である。人口については60,621人であり、那覇市に近く、近年は人口が増加し、都市化が著しい。市街地は西側に形成されている。

産業については、農業は、これまではサトウキビが中心だったが、現在は人参、レタス、小菊の栽培が伸びている。漁業については昔から盛んな地域であり、沖縄県内唯一の第三種漁港が整備されるとともに水産加工工場が立地するなど、現在は商工業が中心として発展している。さらに、近年約50ヘクタールの南浜埋立ての竣工により新生潮崎町が誕生し、平成14年3月に市庁舎建設を終え、今後は住宅地造成等、新たな都市基盤の整備が進められて



いる。平成24年3月には国道331号糸満道路が開通し、那覇港・那覇空港等の物流拠点や平和祈念公園等の観光施設へのアクセス性が向上し、今後の地域振興への期待がもたれている。

糸満市役所前

「平和行政の推進」について

(全般的に市としての取組、戦争遺構の保全、活用)

- 視察目的

糸満市が第二次世界大戦沖縄戦終焉の地として、世界の恒久平和を願う「糸満市平和都市宣言」の理念のもと、戦争の悲惨さ、平和の尊さの教訓を次代へ継承する平和行政の推進について、全般的に市としての取組みについて、戦争遺構の保全・活用の状況について、取組までの経緯や実施状況を調査し、本市の平和行政に生かすことを目的とした行政視察とすること。

- 視察先対応者

糸満市議会事務局長	新垣 善孝氏
議会事務局議事係	川満氏
秘書広報課	玉城氏(男女・平和・交流係)

- 視察訪問先

糸満市役所

- 事業概要

- 糸満市平和行政の取組みについて

- ◇ 糸満市平和祈念祭

糸満市では、平成7年に「糸満市平和啓蒙普及に関する条例」を制定し、毎年6月17日から6月23日までを平和週間と定めている。特に6月23日は慰霊の日として沖縄県内の公立学校はすべて休校としている。

平成8年から糸満市平和祈念祭を行っている。沖縄戦の記憶を「風化させてはいけない記憶を次世代へ」を目的として取組をしている。内容については、第1回：平和ウォークを行い、第2回～第18回：平和の礎清掃活動、平和レクイエムコンサート、第19回、第20回：平和の礎清掃活動、平和レクイエム朗読会、を行ってきたが、第21回からは、沖縄戦の証言者方が高齢化し、亡くなってきていることから、沖縄戦の証言集をアナウンサーの方や子供たちによる平和朗読会を開催している。

- ◇ 糸満市平和ガイド育成

平成24年度から国の一括交付金を活用した事業を行っている。地域の子供たちが、地域で語り継がれている戦争体験を次世代の語り部と

して語り継いでいくことができるようになることを目的とし、平成24年度、25年度については、各小学校から1名ずつで10名、各中学校から1名ずつで6名の計16名、平成27年度からは各中学校から2名ずつの12名とし、計22名が参加している。3年間研修で学んで卒業になるが、まだ学びたい方はOB、OGとして残り、学んでいる。しかし、中学生は進路の話とか、高校生については卒業と共に就職で沖縄を離れたりとかしてしまうので、継続性の問題が非常に難しいとしている。以上の2つの事業が大きな事業としてある。

その他の事業については

- ◇ 糸満市平和語り部育成事業(平和講演会・イベント等)
広く市民等に平和の啓発・発信をするための事業
- ◇ 糸満市ピースプロジェクト(戦後70周年祈念イベント)として行い
平和祈念祭及び平和の語り部育成事業を周知するための事業
- ◇ 糸満市平和講座(ふるさと応援寄附金を活用)
皆様より寄せられた寄附を活用し、戦後70年の節目にあたり平和の継承に携わる幅広い世代の育成を目指して、市民平和講座を平成27年度は5回開催した。

■ 糸満市戦争遺構に関する取組について

- ◇ 平成26年度「糸満市戦争遺構保全・活用整備事業基礎調査報告」
糸満市では、戦争遺構の現状調査を平成26年度から一括交付金を活用して実施している。糸満市には241カ所の戦争遺構が確認されている。その内、30カ所の基礎調査を行った。
- ◇ 平成27年度「糸満市戦争遺構保全・活用整備事業(基本計画)業務報告書」
委員会にて利活用に取り組むため、安全性を中心に調査をした戦争遺構30カ所に概要看板を設置し、沖縄戦の状況を伝える事とした。
- ◇ 平成28年度「糸満市戦争遺構概要看板設置事業」
市内に点在する戦争遺構に概要看板の設置、多言語対応やIT技術を取り入れた「バーチャル空間での戦争遺構体験」など、戦争遺構を体験する手法を沖縄戦終焉の地である糸満市から提示する取組を行っている。
以上が、糸満市平和行政の取り組みであった。

■ 主な質疑応答

Q：平和ガイドの子供たちは、その後、市の事業等に携わっているのか。

A：糸満市内の戦争遺構は人里離れた山の中が多いので、そこを子供たちがガイドをするということは市の目指す形ではない。友好都市との交流の

際に、友好都市の子を案内するということはある。また、平和祈年祭やいとまんピースフルイルミネーションへの派遣をしている。

Q：子供たちに戦争を語り継いでいくことについて、学校教育での取り組みは。

A：毎年6月23日に特別授業を行っており、子供たちを体育館に集めて、体験者からの話を聞いている。

Q：平和ガイド育成で、子供たちの選出の仕方は。

A：学校推薦の形だが、みずから希望してきた子はやはり積極性があり、継承への心構えが強い。



平和祈念公園を視察



ひめゆりの塔を視察



市役所で研修



糸満市議会 議場で

【10月7日(金)】

■沖縄県南城市の概要

- 面積 49.94平方キロメートル
- 人口 43,143人（平成28年8月）
- 世帯数 16,714世帯（〃）
- 産業別 第1次産業（11.5%） 第2次産業（18.1%）
第3次産業（70.4%）
- 市制施行 平成18年1月1日（佐敷町・知念村・玉城村・大里村が合併）

南城市は、沖縄本島南部の東海岸、県都那覇市から南東へ約12kmに位置し、静穏な中城湾と太平洋に面している。東西18km、南北8kmの広がりを持ち、面積は49.70km²で、北は与那原町、西は南風原町、八重瀬町にそれぞれ接している。西側を除く三方が海岸線に接し、東部の海岸側は比較的平地が多く、海岸線に沿って集落が形成され、南部の海岸側は、台地上の地形に集落が形成されている。

東部および南部の海岸部の後方から西部地域にかけては、なだらかな傾斜地の中に耕地が点在している部分と比較的急峻な岩石の断崖となっていて連なっている部分があり、それらの頂上は比較的広い台地で、ゴルフ場などの施設があるほか、原野、耕地が広がっている。頂上から北部にかけては、豊かな緑に被われた丘陵地が海岸部にかけて広がり、南城市の特徴的な地域景観を



形成している。北部の丘陵地から海岸部および西部にかけては比較的平坦な地形が広がり、市街地や集落が形成されている。

離島である久高島は、隆起サンゴ礁で平坦な地形をなし、島の南西端に集落がある。

南城市役所前

上がり太陽(ていーだ)プランについて (市民と行政との協働)

(事業概要、事業を行ったことによる成果・課題)

- 視察の目的

南城市が取り組んでいる地域課題の解決や活性化を目的とした「上がり太陽(ていーだ)プラン」事業については、市の助成金交付団体を決める審査員を市内の中学生が努めるというユニークな取組について、その発想が素晴らしく新鮮さに感銘を受けた。事業概要や応募、採択された事業、審査の方法など、また、事業を行ったことによる効果について、これまでの取組の経緯や実施状況を調査し、本市の経済振興策の検討に生かすことを目的とした行政視察とする。

- 視察先対応者

南城市議会副議長	照喜名 智氏
議会事務局次長	山城 匡氏
南城市企画部長	玉城 勉氏
まちづくり推進課長	屋比久 正明氏
係長	嶺井氏
	大城氏

- 視察訪問先

南城市役所

- 事業概要

- 「上がり太陽(ていーだ)」の意味について

「ていーだ」とは、沖縄では太陽という意味であり、沖縄の方言で「上がりていーだ」とは、東から上がる太陽を意味する言葉である。古代から沖縄では、太陽の昇る東方(あがりかた)と呼び、そこは理想郷「ニライカナイ」がある聖なる方向であると考えられていた。琉球王朝時代には、この地域(南城市)は首里城を中心として太陽が昇る東方(あがりかた)と呼ばれ、太陽神信仰と密接な地域だった。このようなことから南城市は、琉球王国時代から世界遺産である聖地「斎場御嶽(せーふあうたき)」や神の島「久高島」を有する、祈り、人々の心のより所として沖縄の精神文化の理想となる地域となっている。

- 南城市のまちづくりの主な課題について

合併により、市民の新たな一体感やアイデンティティの熟成が必要になった。

定住人口の増加については、総合計画では平成29年度までに定住人口を

45,000人とする目標を設定している。また、南城市には大企業がないので、地域の特性を生かし産業・雇用の創出に取り組んでいる。特に一次産業の6次化については、重要な課題である。現在の人口は43,000人だが、本籍人口は約62,000人いる。3人に1人は市外で暮らしている。理由は、雇用がないことや、土地利用の規制が大きな要因となっている。現在は、秩序ある開発のための緩やかな規制を盛り込んだ南城都市計画区域の設定により、徐々に定住人口が増加傾向である。

沖縄県は、出生率は全国一位だが、確実に少子化の傾向であり、南城市においても少子高齢化が著しい。今後の少子高齢化対策は重要な課題である。

このような行政課題に対して、今後のまちづくりにおいては、行政と市民・市民団体・事業者等との協働によるまちづくりが重要であることから、地域自治会や市民活動団体等とさらなる活性化を促す必要があると考えた。

■ 「上がり太陽(ていーだ)プラン」事業概要について

このような課題から、これからのまちづくりは市民・地域の知恵や結束力が必要である。市民・地域が自主的に地域の課題・問題に取り組むことで地域力の向上、コミュニティの活性化がはかれると考え、平成21年度に、市民や市民活動団体が自主的・主体的に地域の課題を解決することやコミュニティ活性化を目的とした事業に助成を行う、南城市「上がり太陽(ていーだ)プラン」事業を立ち上げた。

◇ 事業の決定について

課題を抱えている地域や、地域の魅力を活かした取組を展開したいと考えている市民・市民団体から事業企画の提案。(事業の概要、スケジュール、予算書等)



書類審査及び公開プレゼンテーション（提案団体からの事業説明）による審査

審査員は！なんと市内5つの中学校から推薦された中学生が行う。

- ・ **子供たちの自由な発想や意見をまちづくりに取り入れる**
- ・ **未来を担う子供達に地域の活動への関心を深める**



採点表の公開、採択団体の内定・市長への答申を経て決定する。



助成金は最大50万円、1団体2回まで交付を受けることができる。



事業報告

◇ なぜ、審査員が中学生なのか

- ・ 大人の固定観念たっぷりな頭ではコストなど現実的なことばかり考えてしまい、ユニークな事業が採択されにくいため、子供たちの自由な発想や意見を取り入れることができること、さらに大人のようにシガラミがなく、公平・公正な視点から選定してほしい。
- ・ 未来を担う子供たちに地域の活動への関心を深めてもらうため。子供たちが日頃から住んでいる町について考え、行動する力を育むことをとおしてまちづくりにつないでいくことを目的としている。

このように審査員に参加した中学生が、この事業をとおして市民活動について知り、また、市の未来について考えることが出来たことはとても有意義なことだと感じている。審査員を務めた中学生からは、「こんな大事な事業に私たち中学生を審査員にむかえてくれて、とても素晴らしい経験をすることができました。ありがとうございます」と述べていた。

◇ この事業が始まって、どんな効果があったか

- ・ 市民、また審査員として参加した中学生が、地域のことについて主体的に考え、地域活動に積極的に参加するようになった。
- ・ 地域課題の解決や活性化を目的とした事業が実施され、地域活動力UPにつながった。コミュニティの結束が図られている。
- ・ 公開プレゼンテーションということで、提案団体は趣向を凝らした独自の方法で事業提案および説明をおこなうことで、プレゼンテーション能力がUPしている。

◇ 改善すべき今後の課題については

- ・ 採択後の市としてのフォローを充実させる必要がある。そのためには事業の進捗状況について市で連絡をとり、市で協力できること、広報紙によるイベント情報提供や備品の借用等の連携をはかっていきたいと考えている。また、事業の実施がおくれるケースがあり、定期的に進捗を確認し、行政との持続的関係性の構築を視野に入れた連携をはかっていきたい。
- ・ 事業の内容というよりもプレゼンの良し悪しで採択が決まってしまうケースがあるため、審査員については、実現できる内容か書類審査でのチェックと内容を重視した審査をするよう、きちんと説明を充実することが必要である
- ・ 市民の活動を、より多くの方に知ってもらう機会を創出する必要があることについては、平成26年度から、市民への周知を兼ねた「採択団体の事業成果報告会」の開催をしている。

◇ 最後に

上がり太陽(ていーだ)プラン事業は、市民協働推進のための一手段にすぎない。手段があっても、まちづくりの担い手がいなければ、協働は進まない。

若くて新しい南城市は、少しずつ協働の動きが芽生え始めた。

市民のつぶやきを形に、思いを仕組に、焦らず、地道に、着実に、協働のまちづくりを推進していくことが大切である。

夢と希望に満ちた「日本一元気で魅力あるまちづくり」を実現するために、これからも市民と共に築いていきたい。

■ 主な質疑応答

Q：審査をする中学生の選出方法は。

A：学校長の推薦で、毎年違う子を選出している。

Q：審査員だった子は、その後は。

A：その後、プランを提案する側になったり、周りにプランの提出を勧めたりしてくれている。

Q：採択されたプランは継続して行われているのか。

A：25団体くらいが継続して活動している。21年度に採択されたイルミネーションは、今年度リニューアルをしてまた採択されている。

Q：事業は今後も継続していくのか。予算的なものは。

A：継続していく考えである。50万円の枠があるが、わずかな予算で取り組める提案もある。

Q：中学生が審査員になるというのは誰の発想か。

A：市長の提案である。審査員の子供たちは市長訪問を行うが、2回面談の機会があるので、子供たちも緊張なく話せるようになっている。

Q：事業を始めるに当たって、中学生が審査員になることについて議論はなかったか。

A：中学生がということに対しての議論はなかった。初めは中学生だけであることを心配して教員がついていたが、どうしても教員の意見が出てしまうので、その後、教員の関与は外した。事務局としての市職員も、原則議論には加わらない。

厚いファイル1冊分の資料を渡しても、中学生たちは勉強をしてきて、大人では聞けないような質問をしてくる。また、プレゼンをする側も何度も練習をしてくるなど、大人も子供もパワーアップしてきている。

Q：市議会としてはどうか。

A（照喜名副議長）：議会としては推し進める考えである。子供の斬新な発想がある。一般の人が入ると「何とかならないか」という話になるが、

これはプレゼン能力に左右される。ただ、劇団に入っている人が採用されるといったことがあるので、この点は課題だと思う。

Q：各団体の企画力は。

A：パワーポイントを使用することが多いが、紙芝居や演劇によるものもある。中には、資料もなく言葉で語って支持を受けたものもあった。

自治会はプレゼン力が弱いので、ムラヤー（公民館の意。自治会を指す）部門を設けて自治会を応援している。

Q：採択された提案の中で、市の事業にまでなったものはあるか。

A：22年度に採択された制服のリサイクルであり、現在は生活環境課が担当している。



世界遺産 齋場御嶽
（せーふあうたき）を視察



島ヤサイを扱う産直施設を
視察

行政視察の成果について

総務経済常任委員長 草間 道治

沖縄行政視察を終えて

私自身初めての沖縄でありました。10月でもさすがに沖縄は暑い！それは日差しだけでなく、人々もあつたかく元気であると感じました。

今回の視察で「平和行政の推進について」訪れた沖縄県糸満市は、第二次世界大戦沖縄戦終焉の地であり、様々な戦争遺構が点在しておりました。平和祈念公園、ひめゆりの塔等の視察で改めて戦争の悲惨さ、平和の尊さを痛感いたしました。



「平和ガイド育成事業」では、市内小学校、中学校の児童、生徒が戦争で起きた悲惨な出来事を風化させず、二度とこのような過ちを繰り返さないため、特に若い世代にこうした事実を伝えるべく次世代の語り部として、語り継いでいくことができるようになることを目指したガイド育成事業の取り組みの成果に期待するとともに、今後、本市の平和行政の参考にしていきたいと感じました。

南城市「上がり太陽(ていーだ)プラン事業」の視察で感じたことは、市の助成金を交付する事業、団体を決定する審査員に中学生を採用するアイデアを考えた市長さんが素晴らしい、子供たちの自由な発想や意見をまちづくりに取り入れ、地域の活動への関心を深めるなど、本当に素晴らしい事業でありました。また、この事業で採択された「制服のリサイクル」が市の事業になるなど、成果が出ていることは、市民協働の成功事例であると感じました。

夢と希望に満ちた「日本一元気で魅力あるまちづくり」を目指すハートのまち、南城市さん、ありがとうございました。

今回の視察で訪れた糸満市、南城市に共通していることは、子供たちが市の事業に参加していることでもあります。三浦市でも、子供たちの自由な発想や意見をまちづくり取り入れた事業を検討・提案をしていきたいと感じ、有意義な視察となりました。

糸満市と南城市への行政視察 報告

1 沖縄県糸満市 「平和行政の推進」について

糸満市には、戦争遺構としてのガマ（自然洞窟）が240ヶ所あり、その内の30ヶ所を調査し沖縄戦の状況を伝えるために概要看板を設置しています。そして、戦争遺構を保存し平和学習に利活用することを検討しています。

三浦市にも戦争遺跡が数多くあります。東京湾要塞としての砲台施設遺跡が剣崎と城ヶ島にあり、岩堂山には砲台施設の司令所遺跡があります。また、本土決戦に備えた特攻隊の基地もありました。ベニアで作ったモーターボートの特攻艇「震洋」の基地が松輪と油壺に、簡易な造りの有翼特殊潜航艇「海龍」の基地が油壺にありました。海岸沿いには、多くの狙撃用洞窟陣地や洞窟砲台の遺跡が残っています。

三浦市は、昭和29年にアメリカのビキニ環礁での水爆実験により大きな被害を受けた経験を持っており、平成3年に核兵器の廃絶と恒久平和を願い「核兵器廃絶平和都市宣言」をしています。

市内の戦争遺跡を調査し、歴史的に貴重な遺跡については保存することが必要です。そして、平和行政・教育などに活用することが求められています。

2 沖縄県南城市 「上がり太陽（ていーだ）プラン」について

南城市では、市民活動団体から提案事業を募集し、優秀な提案事業に対し50万円を上限とした助成金を交付しています。この事業により、地域の活動力がアップしコミュニティの結束が図られ、市民参加や市民協働も活発になっています。助成金の交付を決める審査員が中学生というのも画期的です。

また、協働のまちづくりを推進し、市の魅力や課題、まちづくりに必要な知識やノウハウについて学ぶ「市民大学」を設立しています。市民大学生が「上がり太陽プラン事業」に応募し助成金を獲得するケースもあり、「市民大学」と「上がり太陽プラン事業」が相乗効果をもたらしていると言えます。

三浦市でも、「市民参加のまちづくり」を推進するために、50万円は無理としても、このような助成金交付事業を創設していきたいと思いました。

